

# ITプラットフォーム市場動向 及び2016年度サーバ出荷実績

ITプラットフォーム事業委員会では、サーバ及びネットワークストレージ製品に加え、ネットワークやミドルウェアも含めたITプラットフォームに活動の場を広げ、調査研究と関連市場拡大に向けた提言を行うことを目的に、活動を推進しております。2016年度のサーバの出荷実績を取りまとめ、この実績発表とともに最近のサーバ市場動向、並びにIT活用の現状調査結果内容について公表すべく記者懇談会(5月30日(火))を開催致しました。主な発表テーマを紹介します。

## (1) 2016年度 総出荷について

需要の中心であるIAサーバは、台数・金額とも対前年増となった2015年度から反転し、台数・金額とも前年を下回りました。効率投資追求による投資抑制や、サーバ統合・仮想化のさらなる進展の影響と考えられます。

## (2) 2019年度以降見通しについて

国内経済は、インバウンドの増加、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けたインフラ設備投資などで、

需要拡大の期待が継続しております。IT分野においては、IoT (Internet of Things)、ビッグデータの高速解析やAI (人工知能) を取り込んだ共創による新たな価値創造の動きも活発化していることに加え、社会インフラの整備、セキュリティ対応強化等で需要拡大の兆しが見えています。このような市場環境において、下記の分野・領域においてサーバ需要の拡大が見込まれます。

- ・クラウドを活用したシステム・サービスの拡大に対応するデータセンター構築・増強
- ・IoTの浸透によるネットワーク接続デバイスやデータの増加など市場変化への対応
- ・ビッグデータの高速解析やAIによる新たな価値創造への取り組み
- ・社会や市場からの要請による高度なサイバーセキュリティへの対応
- ・システム運用効率化に向けたサーバ統合・仮想化からシステム統合への取り組み拡大
- ・企業内ユーザ部門での利用拡大に伴う新たなサーバの導入

### 【2016年度 総出荷実績】

(単位:台、百万円)

総出荷		2015年度		2016年度上半期		2016年度下半期		2016年度	
			前同比		前同比		前同比		前同比
IAサーバ	台数	314,142	102%	132,101	88%	153,496	93%	285,597	91%
	金額	222,854	105%	94,934	92%	107,404	90%	202,338	91%
UNIXサーバ	台数	4,984	82%	2,041	80%	2,186	90%	4,227	85%
	金額	49,588	79%	21,208	102%	25,373	88%	46,581	94%
メインフレーム	台数	237	85%	109	100%	119	93%	228	96%
	金額	44,411	79%	11,962	56%	19,590	85%	31,552	71%
独自OSサーバ他	台数	491	107%	175	74%	211	83%	386	79%
	金額	3,455	88%	1,318	79%	1,501	84%	2,819	82%

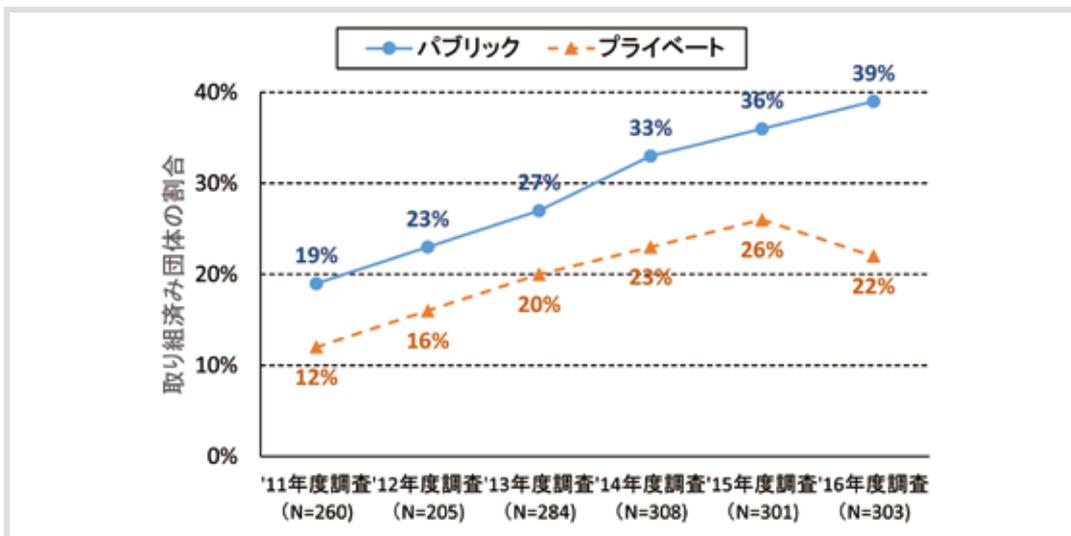
### (3) ITユーザトレンド2016 / 市場動向調査について

当事業委員会では、IT投資動向を始め、注力分野、ITプラットフォームの構築状況等のIT活用トレンドを捉える調査研究を1998年から実施してきました。本年度は「ITユーザトレンド2016 / ビッグデータ・クラ

ウド取組み動向調査」と題し報告書を発行致しました。  
(<http://www.jeita.or.jp/cgi-bin/public/detail.cgi?id=663&cateid=6>)

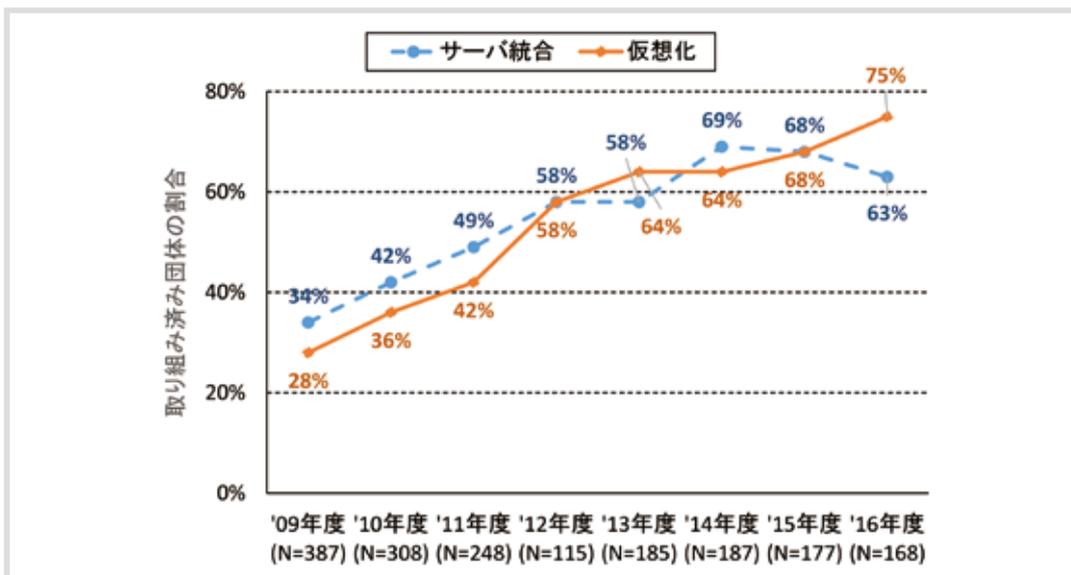
記者懇談会ではこちらの内容を一部抜粋し報告しております。

#### 【クラウドサービスの利用状況】



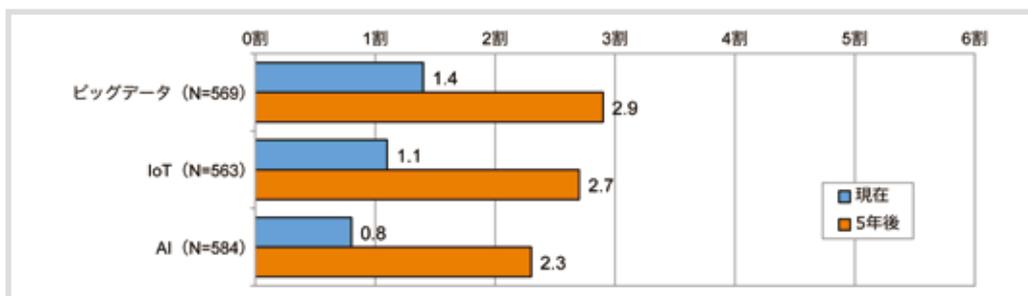
パブリック、プライベートともに年々利用率は増加しております。

#### 【サーバ統合、仮想化取組み推移】



サーバ統合は6割強、仮想化は7割強の取組みとなっております。未だ3~4割が取り組んでおりませんが、これは規模の小さい企業ほど、その傾向がうかがえます。

### 【ビッグデータ/IoT/AIの5年後の利用率】



ビッグデータ、IoT、AIの何れも、現在の1割前後から、5年後には2倍以上に増加すると見込まれております。最新の技術を採用する追加需要が3割前後増加すると期待できます。

### (4) サーバの年間総消費電力量に関する試算について

当事業委員会の傘下に設置したプラットフォームグリーンIT専門委員会では、サーバの年間総消費電力量の推定値の調査を行っており、今回、2001年度から2016年度までのサーバ出荷台数に基づく実績と、2019年度までの予測値を取りまとめました。2016年度は67億kWhの試算結果となりました。2015年度と比べると、1億kWh微増となりましたが、2008年度(72億kWh)を最大として、減少傾向となっております。IAサーバ下

位機の平均定格電力は、ここ数年下がる傾向(約300W)にありましたが、2016年度は378Wと上昇しました。これは、出荷実績、ITユーザトレンド調査でも示したとおり、仮想化用途で、下位機においても高機能的サーバへ需要シフトしていることが想定されます。ただし、出荷台数の拡大がないため、総電力量は、70億kWhを下回るところで推移すると想定しております。



記者懇談会会場の様子

### 【国内サーバ年間総電力量(推計/推移)】

